



SHIONにて

常夜燈・雁木にて

澤村船具店のおかあさんと

(右) SHIONからの眺めはまさに絶景。海、島、空が織りなす鞆の浦ならではの情景を間近に見られるスポット
(中) 実用的なボート用品に加えて、港町らしさあふれる雑貨も扱う澤村船具店(左) 鞆の浦のシンボル「常夜燈」と「雁木」。腰を下ろしてひと休みする観光客も

鞆の浦の景色が大好き。
帰ってくるたびに癒されます



福山市出身

杉原杏璃

とも うち 鞆の浦さんぽ

地元・福山が大好きな杉原杏璃さんが、「潮待ちの港」として栄えた鞆の浦をぶらり散策。鞆の浦、そして福山の魅力について語ってもらった。

町家、路地裏、島の絶景 思い出の地・鞆の浦を再発見

風と潮の流れに頼って航海していた時代、風待ち潮待ちの港として栄えた鞆の浦。港を灯す常夜燈と、船から荷下ろしをするための雁木には、江戸時代当時の面影が色濃く残る。「中学・高校時代、毎年5月にバスに乗って鞆の浦の花火大会に行くのが好きでした」と杉原さん。仕事を含めて年に5〜6回は福山に帰り、鞆の浦は30歳という節目の写真集を撮影した場所。

常夜燈を起点に、そんな思い出深い鞆の浦を歩く。「すっかり鞆の浦のシンボルになりましたね」と杉原さんが感嘆する常夜燈に続く路地に入ると、古い町家が軒を連ね、観光客が行き交う。土産物店のおばちゃんとのやりとりも人情味にあふれ、旅情をかきたてる。狭い道路に面した澤村船具店は元禄年間創業とあって、その佇まいは風格たっぷりだ。店を切り盛りするおしゃれなおかあさんから、鞆の浦の歴史について教えてもらった杉原さん。

「江戸時代の建物が今も多く残っているなんてびっくり。地元の方とふれあってもっと鞆の浦のことを知りたいな」。その後再び海沿いへ向かい、潮風

に髪をゆらしながら走島や尾道への船が出る県営棧橋から山側を望む。「このロケーションがとっても好きなんです。江戸時代の鞆の浦はもって繁栄していたんだろうな...とか、想像も膨らみますね」。

高台に位置する福禅寺対潮楼（P7）。かつて朝鮮通信使の迎賓館で、今は鞆の浦屈指の観光スポットながら、意外にも杉原さんは初訪問。「すごく見晴らしがいいですね。ここからだとして俯瞰した景色が見えて新鮮！」との言葉通り、弁天島や仙酔島などの眺めはまるで絵画のよう美しい。

鞆の浦さんぽの締めくくりは、市営渡船場2階の「カフェ&ギャラリースHION潮音」。目の前を往来する平成いろは丸に何度も乗ったという杉原さんは、19歳まで福山で過ごし、上京「島の緑や海の青を見ると癒されますね。瀬戸内海は波も穏やかでリラックスさせてくれます。福山で暮らしていたとき以上に、東京に住むようになってから地元の良いさを知りました」。

最後に、福山に寄せる熱い想いを語ってくれた。「もって若い人たちがまちにあふれるといいですね。夢をもって地元を盛り上げようとかんばっている友人が多いので、私も大好きな福山の魅力をどんどん広めていきます！」。

Anri's Favorite FUKUYAMA

シーパーク大浜 (旧・ドルフィンビーチ)

夏は毎日のように友達とドルフィンビーチ(混んでいれは近くの別のビーチ)に行っていました。穏やかな瀬戸内海が好きで、他にもなくても友達といるだけで楽しかったなあ。駐車場のおばあちゃんと仲良くなって、ご飯をご馳走になったこともありますよ。

ばら

福山駅前にばらの花壇があって、そこはいつも友達とおしゃべりの場。毎年5月は福山ばら祭に出かけるなど、幼い頃からばらに親しんでいました。そのせいか、東京で暮らし始めてからは、ハンドクリームなど無意識のうちにばらの香りを選んでいました。

福山城

福山城は通学時に通り抜けたり、下の公園で友達と遊んだり...とても思い出深い場所です。天守閣に上ればとても見晴らしが良く、まるで福山を制覇したような気分になりますよ(笑)。自分が生まれた地域にお城があることを、とても誇らしく感じています。

アプリでCheck!
福山観光ガイド
びんGO! 福山
FUKUYAMA TOURIST GUIDE
びんGO! 福山 検索

PROFILE
福山市出身。グラビアクイーンとして雑誌、バラエティー番組にも多数出演。最近では、小説の出版や株式投資が話題に。株タレントとしても活動の幅を広げている